

今日のみことば

□ 7月2日(日) 黙示録 12章

神の勢力とサタンの勢力の大いなる戦いが始まる。ここでは悪の性質が暴露される。サタンは全能の神に挑戦したが、悪魔は象徴でも伝説でもなく現実の存在です。

□ 7月3日(月) 黙示録 13章

地上においてサタンに権威を与えられた獣(反キリスト者)が現れ、全世界が自分を拝むことを要求する。この獣ようなものは歴史上何人もいた。

□ 7月4日(火) 黙示録 14章

ここでは反キリストが支配に関する試練に備えて、キリスト者を勇気づける言葉がある。六人の天使によって審判が宣告され、執行されることが記されている。

□ 7月5日(水) 黙示録 15章

七つのしるしと七つのラッパの後に、私たちに「最後の七つの災害」がもたらされる。これらは主が栄光のうちに再臨される前に行われる最後の審判である。

□ 7月6日(木) 黙示録 16章

第七の鉢のさばきは、神の、地上への最後の完全なさばきである。とうとう終末が訪れた。神のさばきは「真実で、かつ正しい」のである。

□ 7月7日(金) 黙示録 17章

第七の鉢によってもたらされた大バビロンに対するさばきが宣べられる。大淫婦としてバビロンに対する裁きの宣告が記されている。

□ 7月8日(土) 黙示録 18章

ここにはバビロンの完全な滅亡が描写されている。バビロンは、ヨハネが邪悪な世界の力とそれを表す隠喩的に呼んだ名である。神の目的を妨害するすべての結末である。

ろば No. 1822

2017年 7月 2日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

マタイ 9:27-28

そこで、弟子たちに言われた。「収穫は多いが、働き人が少ない。だから、収穫のために働き手尾w送ってくださるように、収穫の主に願いなさい。」

イエスの使命は「ガリラヤ中を回って、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、また、民衆のありとあらゆる病気や患いをいやされた」(マタイ4:23)のでした。イエスは荒野での四十日間の試練の後、しっかりとご自分に与えられた使命を自覚されて、その働きを始めたのでした。そのイエスの教えと働きの結びとして、弟子たちにイエスは「収穫は多いが、働き人が少ない」といわれ、「十二人の弟子を呼び寄せ、汚れた霊に対する権能をお授けに」になりました。イエスの御国の福音は、一人では伝えきれるものではありません。イエスは天に上げられるとき弟子たちに言われました。「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」(マル

16:15)と。これはクリスチャンすべてに託されたものです。私たちは主のご委託に、しっかり応えて日々を過ごしているか。

神学校週間を迎えて、この大切なことを私たちは祈りの課題としてしっかり心得なければなりません。日本バプテスト連盟は「全日本に、キリストの光を！」を祈りの課題としてきました。その祈りによって全国に323の教会・伝道所があります。その中で専任牧師が不在の教会・伝道所が32あります。そのために私たちは祈らなければなりません。日本バプテスト連盟の伝道者養成機関は西南学院大学神学部、東京バプテスト神学校、九州バプテスト神学校です。そこで伝道者として立つため

に学んでおられる神学生は、西南学院大学神学部に21人、東京バプテスト神学校に9人、九州バプテスト神学校に7人おられます。私たちは彼らが主の祝福を受けて、伝道者として立てられてご用ができるようにと祈り、支えて行かねばなりません。本当にイエスが語られたように「働き人は少ない」のです

イエスは「群衆が飼い主のいない羊のように弱りはて、打ちひしがれているのを見て、深くあわれまれた」のでした。私たちの今日の時代は、まさしく、その「飼い主のいない羊のような」状態にあることを覚えずにはおれないのです。羊飼いは自分の利益を求めて、羊たちを顧みない状態であり、偽りの占いや空しい夢に走って、真理を失った状態にあります。この状態は、その彼らの心には福音を受け入れるにいい準備がなされているとイエスは言われるのです。そうであろうと私も思っていますが、そうであれば、なおさらのことしっかりと、真の福音が伝えられなければ、私たちはとんでもない過ちを犯すことになるのではと危惧させられています。

パウロが諸教会に書いた手紙を読ませていただく時に、気づかせられることは、偽教師の横行に対する警告の言葉です。「あなたがたがこんなにも早く、あなたがたをキリストの恵みの内へお招きになったかたから離れて、違った福音に落ちていくことが、わたしには不思議でならない」(ガラテヤ1:6)とパウロは言いました。しっかりと真の福音を伝える働き人が育てられるためにも、しっかりと神学校を支えて行きたちと願います。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

列王記上19:1-18 風の中に主はおられなかった

エリヤの預言によって干ばつが訪れたが、それはすべてアハブ王とイスラエルの不信のゆえでしたが、エリヤとバアル神に仕える預言者との対決で決着はつきましたが、そのために命を狙われることになったエリヤは逃げました。

神はこのエリヤを支えられ、昔モーセが神の前に立った聖なる山ホレブへと導かれました。そこでは自然の中からエリヤに語りかけられました。火の中、地震の中、激しい大風の中に声を聞きました。また「かすかな細い声」に心を静められたことでもありました。そこで神はもう一度「帰って行け」と命じられたことでした。神は道は開いておいででした。

私たちはしばしば絶望の淵に自ら立つことがある。しかし神は真実なお方です。ご自分に対して真実な者の忠実な心を知っておられ、いのちの冠を与えることを望んでおいでです。私たちはそれにお答えするのです。



Read God's Word.